

第3回 里山フェスティバル「里山シンポジウム」報告書

里山に託す私たちの未来

2006年テーマ

「里山とゴミ」



世界で最も豊かな自然と里山の恵みに支えられ、かつての千葉の人々にとっては生活のゴミもまた里山に返すべき資源でした。しかし現在、千葉に投棄されている日本で最も多いゴミ・産廃は、里山の自然を汚すばかりか、私たちの生活・生命そのものを脅かす存在になっています。

この問題についてみんなで考え、その対策の輪を広げたいとおもいます。

イラスト・松下優子、 テーマ題字・倉島貴浩(ワークホーム里山の仲間たち)

里山とは……

自然と調和・共存する人々の生活に育まれた森林・草地から水田や畑、川沼、水辺、そして集落を含む人と自然と文化とが一体となった空間です。この里山は、自然と人との共存の場であり、現在および未来の人々にとっては大きな価値を有します。

千葉県では、里山の保全・再生と活用を目指し2003年5月に「里山条例」を施行しました。その趣旨をしっかりと各地の現場に根付かせるためには、行政をはじめ農家、市民・NPO、研究者等が互いに力を合わせた息の長い取り組みが求められます。

主 催

里山シンポジウム実行委員会 ・ ちば里山センター ・ (社)千葉県緑化推進委員会
八千代市 ・ 千葉県

後 援

千葉市 ・ (財)イオン環境財団 ・ (財)日本自然保護協会 ・ 千葉経済大学 ・ 朝日新聞千葉総局
千葉日报社 ・ 千葉テレビ放送 ・ NHK千葉放送局 ・ 千葉県ケーブルテレビ協議会